

情報連絡員報告総括表（令和7年3月分）

三重県中小企業団体中央会
連絡員総数 40 名
回答数 40 名 （ 100 %）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 (臨時・パートを含む)			業界景況		
		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化
製 造 業	食 料 品	2	1	1	1	3		3	1		1	2	1	1	2	1		4		1	3			4			3	1
	織 維 工 業		2	1	1	2		3				3			3			3			2	1		2	1		2	1
	木 材 ・ 木 製 品		1	1		2		1	1			1	1		1	1		2			1	1		2			1	1
	紙 ・ 紙 加 工 品			1		1		1				1				1			1			1		1			1	
	印 刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1	
	化 学 ・ ゴ ム																											
	窯業・土石製品		2	1		3		1	2			3			2	1		3			3			3			3	
	鉄 鋼 ・ 金 属	1				1			1			1		1				1			1			1			1	
	一 般 機 器	1	1	1	1	1	1	2	1			2	1			3		1	2		1	2		3			2	1
	電 気 機 器			1		1			1			1				1			1			1		1				1
	輸 送 機 器			1	1			1				1				1		1				1			1		1	
	そ の 他																											
小 計		4	8	8	4	15	1	12	8		1	16	3	2	9	9		16	4	1	12	7		18	2		15	5
非 製 造 業	卸 売 業		2			2		1	1			2			1	1		2						2			2	
	小 売 業	1	4	1		6		3	3			4	2		3	3		4	2					6			4	2
	商 店 街		1			1		1				1			1			1						1			1	
	サ ー ビ ス 業		2	2				1	3			4			3	1		3	1					4			3	1
	建 設 業	1	1	2					4		1	3		1	3		1	3						4		1	3	
	運 輸 業		1						1			1			1			1						1			1	
	そ の 他		2						2			2			2			2						2			2	
小 計		2	13	5		9		6	14		1	16	3	1	14	5	1	16	3				20			1	16	3
合 計		6	21	13	4	24	1	18	22		2	32	6	3	23	14	1	32	7	1	12	7		38	2	1	31	8

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和6年3月～令和7年3月)

三重県中小企業団体中央会

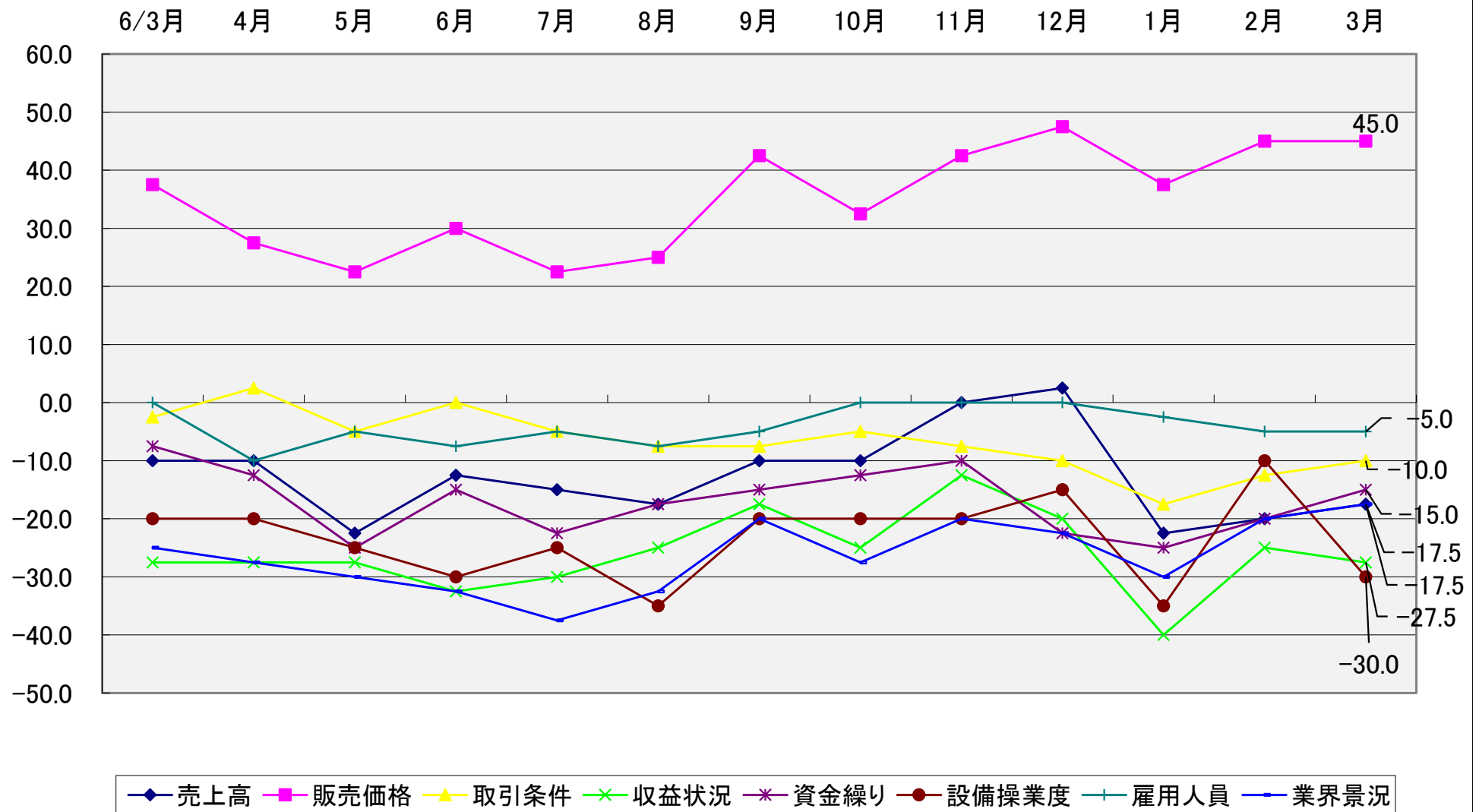
連絡員総数 40 名

	6/3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	増減
売上高	-10.0	-10.0	-22.5	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	-10.0	0.0	2.5	-22.5	-20.0	-17.5	2.5
販売価格	37.5	27.5	22.5	30.0	22.5	25.0	42.5	32.5	42.5	47.5	37.5	45.0	45.0	0.0
取引条件	-2.5	2.5	-5.0	0.0	-5.0	-7.5	-7.5	-5.0	-7.5	-10.0	-17.5	-12.5	-10.0	2.5
収益状況	-27.5	-27.5	-27.5	-32.5	-30.0	-25.0	-17.5	-25.0	-12.5	-20.0	-40.0	-25.0	-27.5	-2.5
資金繰り	-7.5	-12.5	-25.0	-15.0	-22.5	-17.5	-15.0	-12.5	-10.0	-22.5	-25.0	-20.0	-15.0	5.0
設備操業度	-20.0	-20.0	-25.0	-30.0	-25.0	-35.0	-20.0	-20.0	-20.0	-15.0	-35.0	-10.0	-30.0	-20.0
雇用人員	0.0	-10.0	-5.0	-7.5	-5.0	-7.5	-5.0	0.0	0.0	0.0	-2.5	-5.0	-5.0	0.0
業界景況	-25.0	-27.5	-30.0	-32.5	-37.5	-32.5	-20.0	-27.5	-20.0	-22.5	-30.0	-20.0	-17.5	2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする

企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がり、経営を圧迫する状態が続いている。今年は米の価格高騰の影響により、米の消費が減少しており、それにつれて漬物の消費も伸び悩んでいる。
		醤油味噌	年度末となり生産・販売ともに活発になってきたが、利益の状況は厳しい。大手味噌メーカーの事業撤退により、組合員の中には味噌の出荷が増えたところがある。米不足、価格高騰により政府備蓄米が放出され、末端小売店へ並ぶのは月末以降になるとのことであるが、小売価格がどこまで下がるかは不透明だと思われる。4月から多くの食品の値上げが予定されているため、消費者の食品の購入量が減らないか心配である。
		他に分類されない食料品 製造業	値上げ商品が次々と出てくる。4月は賃金の見直しが毎年あるが今年はどうしたものか。時間給プラス10円位は必要か。あるいは30円か、検討中である。DX化できる業種なら良いが、人と車が不可欠な業種は大変である。しかし、問題点や課題を見つけ出し、改善を図っていかなければならない。
		製麺	3月3日地域特産めん研究部会を開催した。今後5月に役員会を開催し、組合員と賛助会員の伊勢うどんの商品をリストアップして5月28日の総会に向けてまとめて、今後の対策を検討する。また、総会にて小林弁護士をお招きして勉強会と研修会を行う。今後の組合員の参加意識をあげていくことが大きな課題になってくる。
	繊維工業	組紐	物価高の影響による和装品の前売り（百貨店や呉服店での販売）での低迷がじわじわと製造元への発注減となっているようである。
		衣料縫製	賃金の上昇が止まらず、日本人従業員を雇用するのがなかなか厳しくなっている。今年の最低賃金の上昇が過去最高と予測されるが取引先の加工賃上昇額も限界にきているので、日本製を守るためにも国の力がますます必要とされようとする。
		テントシート	生地製造メーカーが使用している一部材料が輸入規制による供給逼迫や価格の高騰により4月より生地原反の値上げが行われている。
	木材・木製品	木材	住宅需要が低迷する中で原木不足と丸太高騰を背景に国産材製品の荷動きは低調で人件費や配送料等の高騰も背景に製材工場は厳しい経営環境が続いている。
		木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。従業員の確保が困難である。
	紙・紙加工品	古紙	3月の仕入れ量は、段ボール・約96±3%位、新聞、チラシ・約93±4%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約95±4%位である。桜前線も寒暖差の影響がいつもより開花が遅めのような気がするとともに古紙の発生は例年の減少範囲のように感じているところ、トランプ関税で世界同時株安の様相で円高ドル安である。定期昇給の決定は1か月あたり勤務で平均で6,000円以上としたが取扱量が年々減少する経営環境下の中で更なる不渡りが発生し大変な痛手となった。中部の製紙会社様の3月の古紙発注量も前年比マイナスで多少の古紙在庫を減らし製品在庫を増やし5月からの通年工場整備（SD）となり関連会社の所は古紙発注量減少と古紙在庫を持つ協力を要するようである。古紙の持ち去り禁止法案を議員立法で制定していただけたとの事であるが内容が見えずに多少不安な心持である。現在でも古紙や金属の持ち去り事例はあり、ゴミの置き去りも廃掃法がある中でもなくならず立件までも至らずストレスを感じる。
	印刷	印刷	3月期において、印刷発注量は昨年比で減少傾向である。また、組合加入のメリット以上に経費削減を優先するなど、脱退・廃業を含め、同月末で組合員の脱退が3社あった。このことから今後の組合運営において厳しさを増すことになったのと、組合加入のメリットをどう感じてもらえるか、また組合協約にしても、締結を行って同じ製品を納めるようなことがないため、そのような協約もメリットにならない。
		伊賀焼	組合員業況については、忙しくしているようである。これからも原料費などの値上げの連絡がきているので対応を考えていかなければいけない。
	鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、堅調な状況である。中心は自動車関係であり、依然としてEV関連の受注が好調である。ただ今後については米国の関税引き上げにともない悪影響が出るのが懸念される。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	一般機器	四日市市	全体的には冷え込んでいる状況が相変わらず続いている。引き合いの状況はあまり変わっていない。設備投資を前向きに検討している企業が少なくないように思われる。特に中小企業の設備投資欲は高くなく、また新規案件に関わる設備導入の気配はあまりない。既設設備の老朽化からの更新検討はしているがなかなか受注までにはつながらない。機械加工部品についても発注量が多いとは言えない。また価格の低迷も続いていると感じる。
		津市	先月に比べ受注は戻ってきたが、材料費のアップにより売上が上がっただけで、他の費用の値上げがなかなか認めてもらえず収支は悪化している。アメリカの関税についても来年後半にはかなりの影響があると思われる。材料費のアップが製品の値上げとなり個人消費が鈍くなるという悪循環にならないように願いたい。
		伊勢市	製造業の稼働が低いことが懸念されており、特に3月末ということで多くの企業は設備投資を控えている。この状況下、対米貿易関税や政府の経済政策が進展していないことも影響しており、企業の先行きが見通せない状況が続いている。しばらくこの状況が続くと思われ、4月初からの動向に注視している。
	電気機器	鳥羽市	期末追い込みも過ぎ、受発注は15%ダウン位で推移している。昨年に比べ落ち込みが10%位である。
	輸送機器	伊勢市	受注は一進一退の状況、米国トランプの関税政策の影響が直接ではないが波及している。買上げ、金利上昇、企業物価の高止まり等、国内における経営圧迫材料増加に対し、製品ごとの採算を見直しているが、加工単価値上げ直結とはいかず、採算は厳しい現状が続く。
		青果	(野菜前半)春品目の入荷が増え県内産の菜花が出始め、春の香りが台所へ。鹿児島県産そら豆、熊本県、愛知県産スナップエンドウの入荷が増えてきた。県内産、愛知県産トマトもお手頃な価格になった。また、ブロッコリーがお買得になった。愛知県産、静岡県産新玉ねぎも入荷が増え、スライスしてサラダに最適である。 (野菜後半)愛知県や香川県産のブロッコリー地場産ほうれん草が大変お買得になった。新玉ねぎ、春キャベツは順調に入荷してきた。熊本県産長ナスはやや高値である。宮崎県産ピーマンはやや値下げしてきた。徳島県産ニンジンが高値が続いている。 (果物前半)県内産イチゴが順調に入荷量も多くお買得である。露地物の熊本県産シラヌイの入荷が増えつつあるが作況は良くないが味は最高である。 (果物後半)県内産イチゴは今が一番入荷量も多くおいしくて値段も大変お買得になっている。青森県産リンゴは作況が良くないものの入荷は安定している。価格は高値が続いている。熊本県産や愛媛県産などのシラヌイは味は良いが高値である。
		自転車	トランプ米政権の関税政策で経済の先行きを見通しにくい中、2025年春闘では物価上昇や人手不足などを背景に昨年を上回る買上げや賞与を要求した組合に対し、大手企業が満額回答で応じる展開となっている。自転車業界においては、またしても3月21日付より部品が値上げとなり特にステンレス製品（フロントバスケット等）は50%にも達した。我々小売業者は物価上昇による生活の維持向上をはかっていくためにも3月に入り自転車整備及び部品替え標準工数を見直し始めた。春需要（通学自転車）に関しては2月末にストップの状態となりユーザーは大型チェーン店へと足が向いたようである。修理部門に至っては天候にも左右され安全点検整備に来られるお客様もあり昨年並みとなった。
		電器	例年の年度末に比べるとモノの動きが少なかった印象である。年度末は転勤や新入学など引越しに関連する仕事を多く受けることがあるが、今年は静かだったように思う。商品の仕入れ値や販売価格は新型が出るたびに値上がりしており、上昇が大きい場合で1.5倍になる場合もある。値下がりなどまだまだ見えてこない。
		石油	燃料油価格激変緩和対策事業に基づく補助金にまた異変が起きており、かつてない展開となっている。これまで最大リットルあたり41.4円（2022年6月16日～22日）まで膨らんだ補助金が2025年3月13日～19日の補助金が2.5円まで縮小された。これまでの補助金最小値はスタート時の3.4円（2022年1月27日～2月2日）であったが、現在はその補助金を下回る過去最小の水準まで減額された。わずか2.5円であれば、制度自体が継続されたとしても、どの時点で、補助金がゼロになってもおかしくない状況となっている。いまや「自然減」という想定外の事態を迎えている。こうした現象の背景には原油価格の下落と為替が円高に振れたことによる。過去の原油高騰の最大の原因の一つはウクライナとロシアの戦争が始まったことによる。原油価格は景気次第であるが基本、上値は重い。為替は140円台が大きなポイントであるが円高傾向にあると言われていて。この状態が続くとすれば、激変緩和の補助金がゼロとなり元売りなどの卸価格がダイレクトに反映される民間同士の商取引が小売市場に久々に復活することとなる。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
商店街	熊野市	この月開催された朝市イベントは他地域のイベントが重なり、集客は相当減少した。他の要因として、今年度2月迄実施された1,000円で1,200円分のお買い物ができる限定のお買い物券（市補助事業）が前回で上限に達したため、今回実施されなかったのも要因と思われる。またこの商品券事業の効果もあってか今年度の出店数も比較的に増え、昨年まで出店者の減少に歯止めがかかったこともこの事業に対する効果が大きいと思われる。次年度の商品券事業は継続が決定している為、今後の出店増加と集客が期待される。
	旅館	春休みに入ってから予約も好調に入りだして各地とも賑わっていたようだが、財布の紐は堅く、お客様の節約志向が出ていたようである。対前年同月比は90%程度であった。2019年同月比は70～80%位のようなであった。
	警備	前年に比べ本年は行政関係の仕事が3月上旬にて切り上げとなり、中旬、下旬と仕事量が減少した。
	総合工事業	2025年2月の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べて大きく減少した。内訳は国、県市町のいずれも大幅な発注量の減となっている。4月から月末までの県内企業の通期の請負額合計は前年度比で、1月までは2%の微減であったものが、2月末までは約8%減となり大きく減となった。
	内装工事業	3月分は年度末ということもあり、対前年同月比で大幅な増加となった。予測では前年の数字が高いためマイナスの予想であった。
	電気工事	昨年春以来、電線・ケーブル類の入手が極めて困難であったが、ようやく通常の状態に戻った。当組合の組合員数は、前年度末に472事業所あったが、この1年で17事業所が脱退し、今月末で455事業所となった。脱退17事業所のうち9事業所が、店主の高齢化または死亡による廃業である。
	水道工事業（亀山市）	本年度も亀山市からの業務委託については、無事故で完了することができた。完工高については、量水器の取替えは、取替え個数が多かったため、前年比で30%程度増加した。一方で漏水修理については漏水箇所減少で前年度より減少した。合計で完工高は減少となった。また、組合企業の減少により漏水当番の負担が大きいので出勤件数の減少は組合員への負担は少なくなっていると思う。
建設業		

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	お世話になります。今後、小林弁理士様との対応、よろしくお願いいたします。今後の助成金について組合員が使用できる内容等も教えてください。よろしくお願いいたします。
	他に分類されない食料品製造業	DX化事業継承について今年度もいろいろ教えてほしい。
繊維工業	衣料縫製	特定技能（繊維）の緩和をぜひお願いしたい。
一般機器	四日市市	物価上昇、賃金アップ、人不足と事業環境は厳しく、業界全体で活況な業種が少ないように感じる。特に大企業での賃上げが進む中、その上昇についていかなくはいけない中小企業には厳しい状況が続いている。中小企業の今後の経営環境が改善されるよう支援をよろしくお願いいたします。
サービス業	旅館	需要喚起策を早急に取り組んでもらいたい。それと、間もなくオープンする大阪万博見学の前後に三重で宿泊するような周遊プランを設定して三重の魅力をしっかり宣伝してもらいたい。